

4 児童生徒質問紙調査結果について

やる気の醸成について

小学校では、「自分には、よいところがある」と回答した児童は、72.8%、中学校では、67.6%でした。

また、小学校では「先生は、よいところを認めてくれている」と回答した児童は、全国と比べ、0.8ポイント低くなっていますが、中学校では、全国より2.5ポイント高くなっています。平成26年度の回答と比較すると、小中学校ともに上昇傾向にあります。

(小学校H26 77.1%→H28 81.8%)

(中学校H26 71.6%→H28 80.5%)

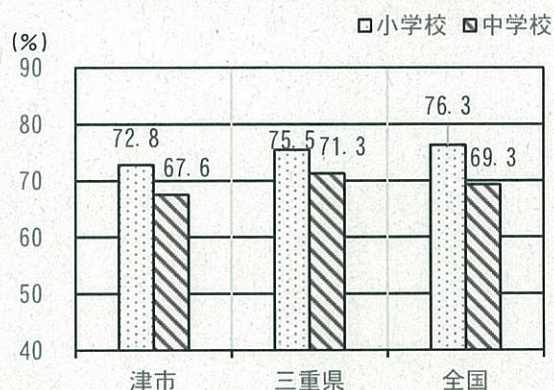
中学校において、生徒は先生から認められているという実感はあるものの、自分のよいところを自覚できていない生徒がいます。

子どもたちの自己肯定感を育むためには、例えば、行事や学習に取り組む際に、子ども自らが目標を考え、それに向かって工夫する点や努力する点などを考えさせて、その基準に沿ってどこまで達成できたのかを評価することが大切です。

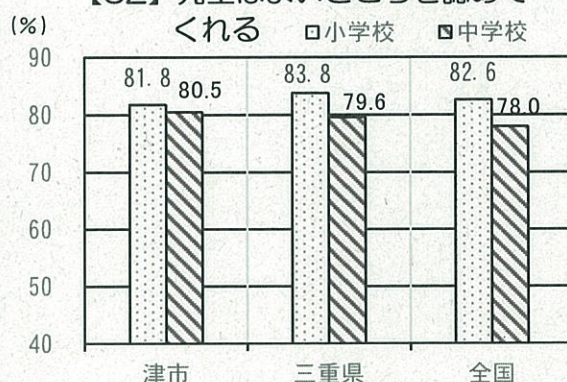
授業や活動の後の振り返りシートなどに、ただ「頑張ったね」と書くだけではなく、その児童生徒が「こだった」「見てほしかった」という点に触れ、人の役に立った、人から感謝された、認められたと感じられるような評価をすることが必要です。

さらに学校の教職員、家庭・地域全体で家庭背景を含めて児童の思いに寄り添い、課題の設定を適切にして、多くの成功体験が得られるようにすることも大切です。

【6】 自分によりところがある



【32】 先生はよいところを認めてくれる



学校での学習について

小学校では、「友達の前で自分の考えや意見を発表することが得意」と回答した児童生徒は、全国と比較すると3.7ポイント高くなっているものの中学校では1.1ポイント低くなっています。

「学校質問紙」の質問項目にあるように、児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めたり、学級やグループで話し合う活動を授業などで行ったりすることが必要です。また、それらの活動を通して、児童生徒にどのような力がついているのかを、常に検証していく必要があります。

＜参考＞学校質問紙（平成28年度）

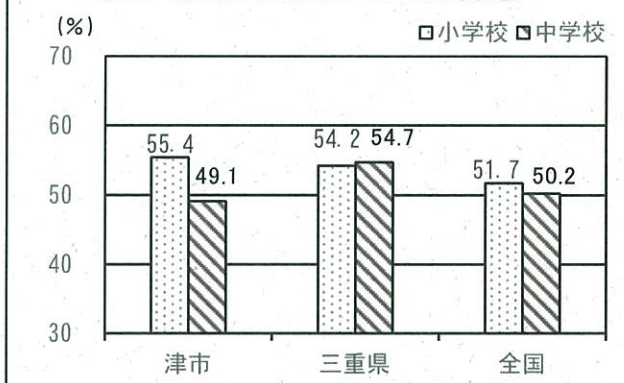
- ・児童生徒の発言や活動の時間を確保して授業を進めている
小学校：94.4% 中学校：95.5%
- ・学級やグループで話し合う活動を授業などで行っている
小学校：94.4% 中学校：90.9%

また、「友達と話し合う時、友達の話や意見を最後まで聞く」と回答した児童生徒は、小学校91.8%、中学校92.6%で、いずれも全国より低くなっています。

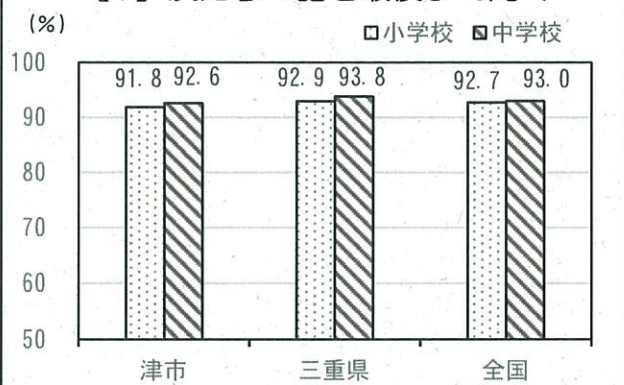
コミュニケーションは、話を聞くことからスタートです。また、アクティブ・ラーニングにおける協働学習では、聞き合いが基本となります。

日常生活の中で、友だちの意見をよく聞き、自分の意見との共通点や相違点等に着目しながら、相手の意見を注意深く聞くことができるよう指導する必要があります。聞く力を身に付け、よりよい学び合いになるような習慣を身に付けさせるとともに、聞き手のことを考えた話し方についても指導していくことが大切です。

【7】意見を発表するのは得意



【8】友だちの話を最後まで聞く



目標（めあて、ねらい）の提示と振り返る活動について

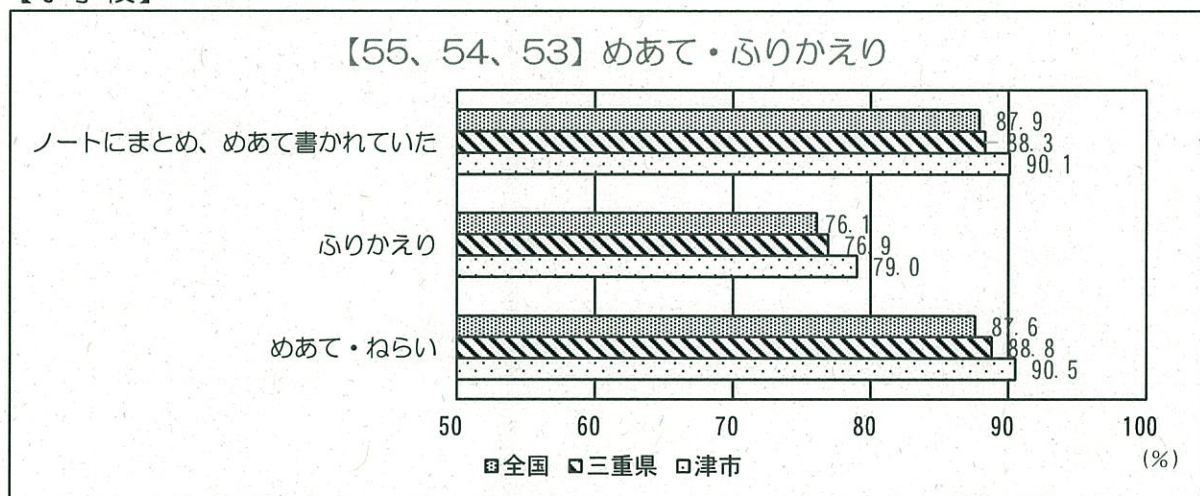
目標（めあて、ねらい）の設定に関しては、小学校 90.5%、中学校 88.7% の児童生徒が授業の中で「めあてやねらいが示されていた」と回答しています。

また、「授業で扱う学習ノートに、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いている」と回答した児童生徒は、小学校 90.1%、中学校 77.6%です。

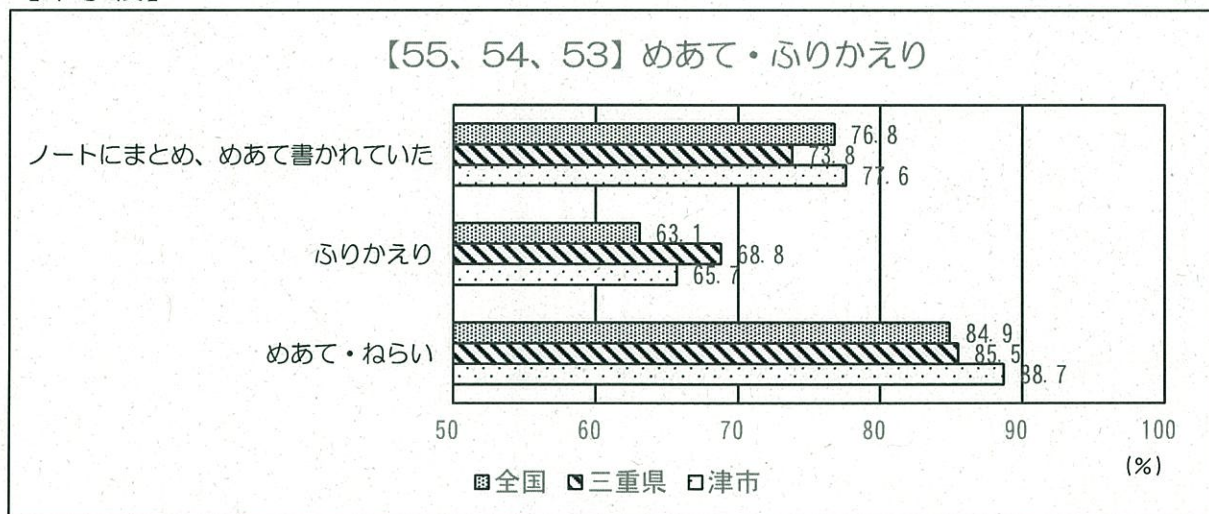
授業の冒頭で、目標（めあて、ねらい）をノートに書かせたり音読させたりして、目標（めあて、ねらい）への意識を高めさせることにより、授業の方向性や目的を明確化することができます。

一方、振り返る活動については、ノートや板書から文章でまとめ、授業内容の理解が深められることにより、家庭での復習につながるように、学校での取組を進めていくことが大切です。また、タイムマネジメントをきちんと行い、振り返りの時間を確保することが大切です。

【小学校】



【中学校】

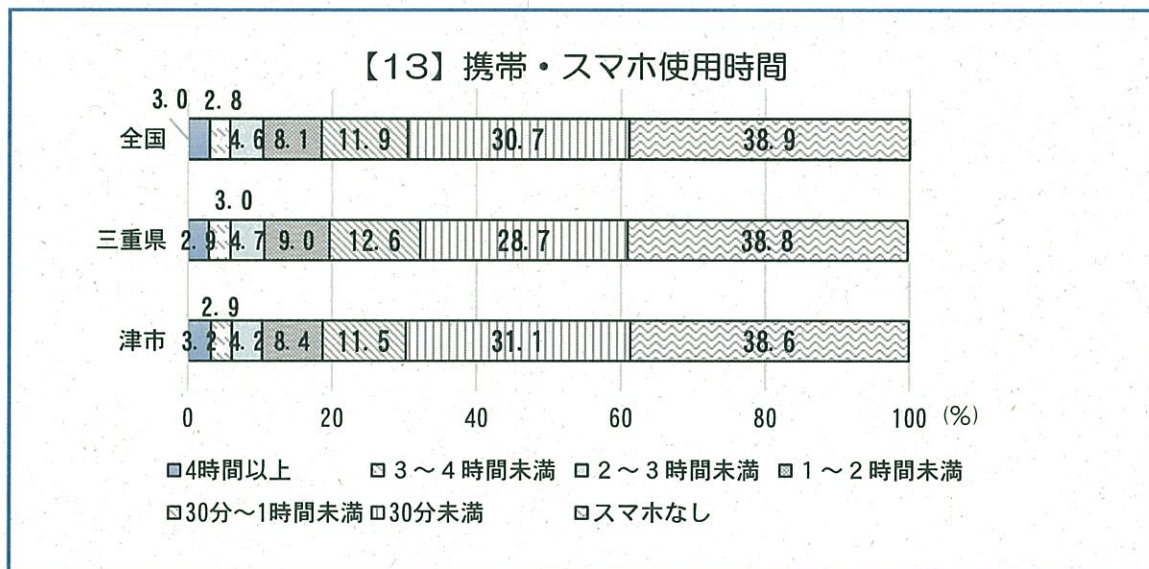


家庭生活について

小学校では、携帯電話やスマートフォンを使用している時間が3時間以上の児童の割合が、全国と比較してやや多くなっています。

中学生においては、平成27年度に中学生自らが立ち上げた津市中学生「ケータイ安全利用宣言」の効果もあってか、平成27年度と比較して「4時間以上使用する」が3.3ポイント減少しました。また、全国や三重県と比較しても少なくなっています。ルールができたことで、時間などの約束を守りながら節度をもって携帯電話やスマートフォンを使用しようとする生徒の姿がうかがえます。今後も、各家庭において、携帯電話やスマートフォンを安全に活用するための家庭でのルールを決めたり、フィルタリングを使用したりするなどの対応を図るとともに、子どもたち自らが効果的な活用について考える機会を持っていくことが大切です。

【小学校】



【中学校】

